2021 秋 プロジェクトマネージャ 全国統一公開模試 講評と採点基準

2021 年 9 月 25 日 (株)アイテック IT 人材教育研究部

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後Ⅰの記述式問題は，各問題で適切な解答数で構成されていて本番の雰囲気のある問題がそろっていました。そんな中，白紙の解答はほとんどなく皆さんきっちり解答できていました。しかし，設問の要求事項や問題文の解答ポイントが捉えにくく解答しづらい記述式の問いが散見されました。今回 60 点以上得点できた人は自信をもってよいと思います。得点が芳しくなかった人は解答の要点や表現を見直し，得点できるようにする努力を心掛けてください。

午後Ⅰ試験では全3問の出題から2問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記入しますが，きちんと 2 問選んでいない人，丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して，指示通り確実に問題選択することを心掛けてください。なお，漢字の間違いや略字，問題文や設問文と論理的にずれた解答が見られました。また，単語レベルで説明不足の解答表現も見られています。特に設問要求に解答表現がきちんと論理的に噛み合っているかに注意しましょう。設問の問いかけに対応する答え方なのかに留意してください。

解答の影や筋が全く見当たらないような難問奇問は，本試験では，まず出題されることはありません。したがって，午後Ⅰの記述式問題の解答に当たっては，一般的な専門知識を前提に，問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。問題文や設問文に解答制約，キーワードや手掛かりが見つからないときには，そこで初めて，一般的知識による解答を考える必要があります。つまり，問題文や設問文にある解答制約，キーワードや手掛かりは必ずあると信じて取り組みましょう。解答制約，キーワードや手掛かりを適切に把握すれば，必然的に正解へたどりつくことができます。この手順に誤りがあった場合，例えば，一方的な思い込みや自分自身の経験に対するこだわりなどによって不正解の解答になってしまいます。つまり，設問要求や問題の意図するところを読み取り，確実に言い切れるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

正解したつもりで不正解になってしまった場合は，設問要求に沿っていない，問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない，問題文の中で客観的に言える範囲を超えている，異常にピンポイントな視点であるという理由が考えられます。その内容自体は正しくても，その問いの正解としてふさわしくないのです。不適切な解答の中で多いのは，解答のポイントや方向性は間違ってはいないのに，設問の考えや趣旨からずれている解答，要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり，解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で，設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるよう心掛けてください。

総じて，解答欄に対してボリュームが異常に少ない雑な表現，高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を疑わせる表現，「そこまで限定して言い切れるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や，いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は，採点者に対して心証が悪く，それだけで減点対象となります。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

論文系の区分の午後Ⅰ試験はその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分でも，受験されたほとんどの皆さんが，何らかのシステム開発プロジェクト業務に携わっていると思われ，直接の PM 経験がなくても，自身の業務経験と合わせて最後まであきらめずに取組みましょう。必ず合格するという強い意志をもって臨むようにしてください。

＜午後Ⅰ＞

問1 人材管理システムの構築

【採点基準】

［設問1］

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

［設問2］

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 10 点。

［設問3］

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

［設問 4］

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対しメンバ 5 点，理由 10 点。原則メンバが正解のときに理由の得点を認める。

【講評】

人材派遣業の人材管理システムの構築に関する問題です。プロジェクトの環境や状況を俯瞰的に捉え，問題

文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要があり，表現が揺れやすく悩ましかったと思われます。選択した人は多かったですが，解答の要点をうまく捉えられずなかなか得点を伸ばせない状況が散見されました。

設問 1 は，必要なデータの明確化が解答の要点です。この点を明示的に示さないと不正解としています。表現が甘い場合，半分の得点としました。情報システム部門の要員についてしっかり捉えて表現しないと得点につながりません。注意しましょう。

設問 2 は，「営業部門のマター」，「個人情報の漏えいリスク」の脈絡を捉えて正解としています。「個人情報の漏えいリスク」についての解答がなかなか出なかったようです。

設問 3 は，要件定義の完了に対する影響が少ない旨を表現して正解にしています。この設問は比較的，正答率が高かったです。

設問 4 は正確に表現した解答は少なかったように思います。理由に明確な目的意識が欠ける記述が目立ちました。

この問題は，解答表現を絞るのが悩ましかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められます。

問2 プロジェクトの立て直し

【採点基準】

［設問1］

（1）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。

（2）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

［設問2］

（1）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 4 点。

（2）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点。

（3）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

［設問3］

（1）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

（2）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

【講評】

定型処理の自動化システムの要件定義に関する問題です。プロジェクトの環境や状況を捉え，問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて要領よく解答しましょう。問 1 同様に表現が揺れやすくかなり難しかったと思われます。

設問 1(1)は，スケジュールを厳守することが解答の要点です。この点を明示的に示さないと不正解としています。手戻りを防止する旨も正解としました。表現が甘い場合，2 点としました。過去の経験があったことだけでは不正解にしました。今回のプロジェクトでどうなのかを解答しましょう。(2)は「半年前の組織再編のリスク」が解答の要点です。この点につき適切に表現する必要があります。

設問 2 の(1)は，解答の要点をしっかり押さえる必要があります。プロフェッショナル性に欠けるピンポイントな解答が目立ちました。(2)も同様な状況ですが，(1)よりも正答率が高かったです。(3)は，「要件の整理」，「優先順位の決定」を押さえて正解としています。

設問 3(1)は，適切な要件の洗い出しを表現して正解にしています。(2)は総務部と営業部の要件から円滑にプロジェクトが進む趣旨に対しては 4 点としています。

この問題も，解答の要点を押さえるのが困難で得点が伸びなかったようです。解答の根拠を明確にしましょう。

問3 プロジェクトのステークホルダマネジメント

【採点基準】

［設問1］

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し a は 5 点，b は 5 点

［設問 2］

（1）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

（2）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点。

［設問 3］

（1）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し案件名 5 点，理由 10 点。

（2）解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点。

【講評】

ステークホルダマネジメントに関する問題です。よく問われる観点で構成されていて，取り組みやすく，比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考え解答を表現する必要があります。

設問 1 は，人物を適切に表現できていれば正解です。プロジェクトの体制についてしっかりと把握して解答

することが求められます。

設問 2(1)は，問題文の文脈から把握していく必要があります。(2)は「上司や人事部門との連携」が解答の要点です。表現が甘いと半分の得点にしています。

設問 3(1)は，「購買」を「購売」としている解答が驚くほど多かったです。逆の意味ですので注意してください。理由は，内容を正確に捉えて正解としています。機能だけでの表現は得点を半分にしています。 (2)は，表現が雑で内容不十分な場合は半分の得点にしました。丁寧に表現するようにして下さい。

記述式の解答に際して，設問要求や問題文を踏まえて「問われていることを客観的に確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。ピンポイントな解答は避けましょう。また，自分の感覚や経験で解答しないように注意して下さい。

解答表現としては，俗っぽい表現や稚拙な表現は避けて，プロフェッショナルな表現を心掛けてください。そうすることによって，採点者の心証がよくなり，得点力を高めることができますし，解答の実力を養っていくことにつながります。

なお，どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3 問から 2 問選択ですので，言い換えると「どの 1 問を捨てるか」ということになります。一見，解答数が少ない問題が簡単そうですが，解答数が少ない分，配点が大きいので得点率の変動が大きくなります。有利とは言えませんので，安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は問題を解いてみないと何とも言えませんが，問題文のテーマやドメイン，設問文の解答のしやすさなどを目安に迅速かつ適切に問題選択を行うようにするとよいでしょう。

以上